

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2472500137
法人名	社会福祉法人 はまゆう会
事業所名	グループホーム フルハウス
所在地 (電話番号)	津市香良洲町1991-1 (電話) 059-292-8545
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 8 月 8 日(金)

【情報提供票より】 (H20年7月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要(7 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	84 歳	最低 79 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふじおかクリニック
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所周围は梨畑、住宅、川、海岸が近くにあり、自然豊かで環境が良好である。同敷地内に法人の老人福祉施設、デイサービス等居宅介護支援事業所があり、よく合同で行事が行われ、交流している。介護歴22年のベテラン管理者をスーパーバイザーとして、それぞれの職員が理念実践に向け努力している。鍵をかけないケアを実践しており職員、利用者間の信頼関係も厚く開放感のある事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善計画シートを作成し取り組めるところから取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	年1回の有効な見直しのチャンスと捕らえており全員で取り組んでいる。第三者の意見を聞くことも異なった視点で物事が考えられるとして活かしている。 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 事業所の活動報告や地域との交流のあり方、事業所に対する要望等課題としている。参加者それぞれの立場から意見、情報等得ているが、ややマンネリ化した傾向がある。再度会議の意義、目的を認識し多くの意見を引き出しサービスの質の向上に活かせるよう魅力的な会議運営を期待する。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 定期的及び随時の状況報告により安心して頂けるようにしている。運営推進会議への出席や面会時の対話等から意見を表出して頂けるよう努めている。苦情に対しては全員で検討し改善につなげている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 主として香良洲町社会福祉協議会が地域との橋渡しの役割をしている。事業所独自でも積極的に地域との関係作りに努め、お互い支え合い、往来できる関係作りができるように期待する。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本人の気持ちに向き合い、寄り添い本人本意に生きることを支援する。又家族とのつながりを大切に地域とも共に支えあえる関係作りに努めることを理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目につく所に掲示し意識付けすると共に、会議やミーティングの場で唱和する等再確認している。又、日々の支援に迷いが生じた時等は基本(理念)にもどるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	香良洲町社会福祉協議会が地域の仲介的役割を果たしており、多くの地域行事に参加できるようになった。ゴミ拾いや、海岸清掃にも参加し、日常的にも挨拶やおしゃべりができる等関係も深まりつつある。	○	事業所自体も積極的に地域との関わりをもち、支え合い往来できる関係作りに努力されることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全員で取り組み、ミーティングで話し合っている。年1回の見直しの時期として有効と捕らえており、気づきや改善点等は改善計画書を作成し、できることから取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催、利用者全員・家族の参加もある。事業所の活動報告、地域交流のあり方、事業所に対する要望等議題としてあげ、参加者それぞれの立場から意見、情報等を得てサービス向上に活かしている。	○	定期的に行われているが会議運営にマンネリ化を感じている。出席者に会議の意義や役割を再確認して頂き、メンバーから更に多くの意見を引き出し、質向上につなげていける魅力ある会議運営になるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あまり取れていないのが実情である。認定更新手続きやオムツ支給の手続き等で連携はあるが、今後情報交換、運営上のアドバイザーとして連携を図っていききたい意向である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的には毎月生活状況や身体状況等文書で報告、3ヶ月に1回事業所だよりを送付すると共に金銭報告している。又面会時には必ず声かけし、報告・相談の機会とし家族の安心につながるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部(学生、第三者機関)からのアンケート調査依頼があると積極的に受け入れ、結果を考察している。面会時の対話の中からの引き出しや会議等の場で意見を表出して頂けるように努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人全体の運営のため異動は止むを得ないが、極力避けるよう管理者に申し出ている。交代時は重なり期間を持ったり、1日1回は異動先に顔を出し声かけする等顔見知り関係を作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内があると希望、推薦等により出席している。月1回のペースで参加し、伝達講習により共有している。資格取得にも意欲的で個人で受講している。現場での学びは気づきがあった時スーパーバイズしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に参加交流を図っている。相互訪問や実習生の受け入れ、合同イベントを開催する等積極的に行っている。お互い良いサービスの提供に意欲的である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	独居の方等入居前に家庭訪問したり、入居に必要な家財道具を取りに行く等なじみの関係づくりに努めている。又、お試し期間を作り家族と共に過ごしたり面会を多くする等、場に溶け込めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から料理作り、園芸、慣習等教わることが多い。知恵や得意とする分野で力を発揮できる場を作り共に暮らしている。利用者が自分も人の役に立っているという感覚が持てるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から寄り添い、思いを汲み取る関わりをし、利用者の表現をキャッチできるようにしている。又、表現しない人にもその人らしく暮らせるように自己選択、自己実現できるように対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者や他の職員の気づきや思ったこと、感じたことをまとめ、会議やミーティング等で検討し、意見を反映した計画作りをしている。家族の意見も取り入れ、身体面のみでなく生活の視点からも介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを月に1回実施している。計画の妥当性や支援の効果を考察し、必要に応じて追加、修正をしている。又本人や家族から新たな意見があった時や職員の気づきがあった時等随時見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外泊時の送迎や必要になった荷物を一緒に取りに行ったり、お墓参りする等支援している。ショートステイの申請を行ったので空きベットができれば今後受け入れていく方針である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により利用者全員が協力医を主治医としている。2週間に1回の往診があり、楽しみにしている。他科受診も希望する医師に受診できるよう家族の協力を得たり無理な時は支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	週末期に対する指針はない。その都度話し合い方針が決まれば全員で共有していく。過去にもお一人看取りの経験があり、その体験を今後の終末ケアに活かそうとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を重視し「自分だったらどう思うかな」「どう感じるか」等自分におきかえて言葉がけや対応に心掛けている。書類は事務所内に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まりごとはない。朝寝する人、食事をゆっくり取る人、部屋の清掃や整理をする人、手芸しながらおしゃべりを楽しむ人等自然に過ごしている。買い物希望があれば応じる等、利用者が主人公になれるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1週間に1～2回はスタッフと共に作る。野菜を刻む、天ぷらを揚げる、盛り付け、配膳、お茶入れ等、それぞれの方がもてる能力を発揮し準備される。後片付けも自然に参加される。職員も共に食事を頂き隔たりがなく、なごやかである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日15時から行われる。月に2回は夜間入浴の機会を作りパジャマに着替えてくつろぐ楽しみもある。浴室が大きく気の合う人と複数で入れることも楽しみの一つである。希望者は毎日入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、洗濯干しやたたむ事、朝夕のカーテン・窓の開閉やゴミ処理等、それぞれの方のもてる力を発揮できるチャンス作りに努めている。役にたっていることが生きがいにもなり認知症の進行予防につながった人もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な事業所周辺の散歩、外気浴はもちろんのこと近くの神社参拝、公園散策、買い物等、その日の希望に沿えるようにしている。イベント等では車で各所へ出かけ観光気分を味わえる支援もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけられていない。非常に開放感があると共に職員、利用者共々に信頼感が厚いを感じる。安全には充分配慮しつつ、自由な生活ができるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人と同時に年2回行っている。事業所独自の避難訓練も行っているが、夜間を想定したものや地域の方々の参加がある訓練はしていない。会議で検討予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の特養の食事がベースになっているためカロリー管理はされている。食欲低下のみられる人には捕食や口当たりの良いものを提供したり、咀嚼、嚥下に問題のある人には細かくきざむ等対応している。水分は1日1.5～2リットルを目安に補給に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入れればすぐ居間兼食堂になっており見通しが良い。リビングはゆったりしたソファが置かれ畳のスペースもありくつろげる。あちこちに季節の花が飾られ、利用者の作品も掲示されている。廊下も広く窓が開放されている為異臭も少なく明るい。掃除も行き届いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋が広くゆったりしている。ベット以外は自分の物を持ち込まれ、テーブルセット、仏壇、箆笥等なじみの物を置かれている。花を飾ったり写真を並べたり自分の部屋らしくレイアウトし、くつろげる部屋にされている。		